

この国連教育科学文化機関による「スペシャルニーズ教育に関する世界会議」で、「万人のための教育」という目的で採択されたものです。

つまり一人一人が違うのが当たり前であり、すべての子どもを包括してゆく教育の中で、特別な教育ニーズに添えていくというものです。

生物体は、「刺激が弱すぎても強すぎても発育・発達をしない、適度の刺激によって発育・発達をする」という法則があります。従って教育は元来、個々をみて行われるべきものであり、今までこのようなことが十分に生かされていなかったのではないかと思います。今回、障害のある児童生徒一人

は第6学年の児童339人、中学校では第3学年の生徒369人が受験しました。

学力調査の実施に当たっては、特にトラブルもなく無事に調査を終了しました。文部科学省によりますと、今回の学力調査の結果の公表は、9月ごろになる予定です。なお、結果の取り扱いについては、今後、国、県、他市の対応を参考しながら検討していきたいと考えています。個人情報保護の観点からも特に公表には慎重に対処したいと思えます。

また、教育委員会としては、今回の学力調査・質問紙調査の結果を分析し、今後の行政施策や各学校の日々の授業改善に生かし、本市の学校教育の質の向上に努めていきます。

通級指導教室「ことばの教室」を邑久小学校に新設

「通級指導教室」とは、通常の学級に在籍する、軽度の障害のある児童生徒に対して特別の指導を行う場です。

通級による指導の対象となる障害は、言語障害、自閉症、情緒障

一人の教育的ニーズに応じた教育的支援を行うということで「特別支援教育」になりましたが、もちろん障害を有しない個々の児童生徒にも、教育的ニーズに応じた教育を保障する責務があります。

学校施設耐震化優先度調査結果を学校統廃合の参考資料に

学校施設耐震化優先度調査の結果が、3月末に出ました。

この調査は、耐震診断・耐力度調査を実施しなければならぬ学校施設を多く所管している地方公共団体などの設置者が、どの学校施設から耐震診断や耐力度調査を実施すべきか、その優先度を検討することを主な目的として実施したものです。

この結果を、通学区域等検討委員会における学校統廃合の審査の参考資料の一つとして、答申後の整備計画作成に生かそうと考えています。

全国学力・学習状況調査結果を分析し、学校教育の質の向上に努力

学校教育における学力保障は、

害、弱視、難聴、学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)、肢体不自由、病弱、身体虚弱です。

小・中学校の通常の学級に在籍する児童生徒のうち、これらの障害の状態の改善、克服を目的とする指導が必要とされる児童生徒が対象となるので、特別支援学級や特別支援学校に在籍する児童生徒は対象となりません。

また、通級指導教室での指導は、児童生徒一人当たり週1単位時間から8単位時間を標準としていて、担当教員による個別指導が可能となっております。

本市では、これまで通級指導教室が設置されてなく、通級による指導を必要としている本市の児童の多くは、周辺市の通級指導教室に依存する状況でした。特に、備前市立の小学校にある「ことばの教室」で指導を受ける本市児童が年々増加する傾向にありました。

このような状況で、本市内にも通級指導教室設置の必要性が高まり、岡山県教育委員会へ要望の結果、平成19年度から小学校での新設が認められました。

新設に当たっては、言語機能に

最優先の重要課題です。これまでのPISAなどの国際学力調査結果の公表によりますと、児童生徒の学力低下の問題だけでなく、学習意欲も低下傾向にあることが明らかになっています。

こうした状況を受けて「義務教育の質を保障する仕組みの構築」が国際的に求められている中、文部科学省は、学校の設置管理者である市町村教育委員会や学校法人などの協力を得て、平成19年度から全国的な学力調査を実施しました。

この調査は、「児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育の結果を検証し、改善を図る」、「各教育委員会、学校等が全国的な状況等との関係において自らの教育の結果を把握し、改善を図る」ことを目的とし、小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒を対象としています。調査内容は大きく二つに分かれ、



誰もが子どもたちの健やかな成長を願っています

24日に実施されました。本市でも、小学校10校、中学校3校で実施されました。小学校で

障害のある児童や、コミュニケーション能力に問題のある児童を対象とした「ことばの教室」を設置することにしました。

設置場所については、市内の各地域から通いやすいことや、通級指導に使用可能な教室があることなどを総合的に判断し、邑久小学校の「夢ひろば」へ設置しました。5月1日現在、通級指導を受けている児童は7人です。今後、通級指導の希望が増えてくることも予想されるため、設備などの充実を図っていく必要があると考えています。

通学区域等検討委員会で通学区域や学校統廃合について協議

3月26日に通学区域等検討委員会を立ち上げ、「幼稚園、小学校、中学校の通学区域及び学校統廃合に関する件」について諮問し、第1回の会議が開かれました。

5月29日には2回目の委員会が開かれ、さらに検討を重ねています。今後は7月に3回目の委員会を行い、9月には答申を出していただく予定です。

第19回全国生涯学習フェスティバル瀬戸内市実行委員会が設立

国内で唯一の参加体験型の全国的生涯学習イベントである、第19回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア岡山」が、本年11月に岡山県で開催されます。

本市においても、「瀬戸内シンフォニー響きあうまなびの輪」のキヤッチフレーズのもと、豊かな自然に恵まれた美しい景観や多彩な歴史・文化資源を活用し、本市の特色を生かした、官民協働による「人づくり」「地域社会づくり」に貢献できる生涯学習フェスティバルにするための準備に取りました。



本市開催事業の一つとして人形劇も予定されています